

# ワールドクラスへの飛翔 未来を創造する東北大学キャンパスレポート

## 青葉山北 キャンパス

### 理学系総合研究棟の建設に着手

仙台市営地下鉄東西線青葉山駅(仮称)からの青葉山北キャンパスのエントランスとなる場所に、理学系総合研究棟を計画、建設に着手した。既存の周辺建物と調和の取れた外観とし、低層部には大ホールやロビーラウンジ、カフェ等を設け、駅からの動線をうけるオープンスペースとあわせて、来訪者を迎え入れる空間構成としている。また免震構造を採用し、災害時における研究継続を可能にするとともに防災拠点の役割を担う計画である。



理学系総合研究棟イメージバス

## 青葉山新 キャンパス

### 災害復興・地域再生重点研究拠点の建設に着手

2012年4月に発足した災害科学国際研究所の拠点施設を青葉山新キャンパスのキャンパスモールに面した敷地に建設開始。災害時への対応を考慮した免震構造の約1万㎡地上5階建の建物は、新キャンパスのデザインコードに則りスクラッチタイルを用いた縦方向を強調したデザインとなっている。1階部分には大ホールや展示スペースなどを設け、様々な研究発表や災害時の情報発信が可能な施設を目指している。また、農学研究科の移転計画も進行中。



## 青葉山東 キャンパス

### 実験研究棟改築中

地震被害を受けた電子・応物系、マテリアル・開発系、人間・環境系の3つの研究実験棟の改築工事が2014年初旬の完成を目標に進んでいる。免震構造と非常用発電機による安全対策に加え、停電時でも自然光の入る廊下やスマートメーターなどBCP対応や低炭素建築物に配慮。また、東キャンパスのモダンリズムを基調とした景観を継承し、各建物の連続感や素材の特徴、質感を活かした外装材による現代的で質実剛健なイメージの新しいキャンパスへと再生する。



電子・応物系実験研究棟 イメージバス

### センタースクエアがグッドデザイン賞とBCS賞をダブル受賞

2011年に完成したセンタースクエア 中央棟/BOOOK(ブックカフェ棟)が前庭から家具に至るまでのトータルデザインを評価され、2012年のグッドデザイン賞とBCS賞をダブル受賞!



## 川内南 キャンパス

### 緑豊かな屋外環境を整備



文系の研究科が立地する川内南キャンパスでは、これまで自転車やバイクで塞がれていた中央の通路を、快適に歩き憩えるモール空間としてリニューアル。隣接する仙台城址や植物園と一体となった、思索や交流を促進する緑豊かな環境の形成を目指す。



## 星陵 キャンパス

### 最先端医学研究の拠点整備が進行中

星陵キャンパスでは、最先端医学研究の拠点を目指し様々な整備が進行中。東北地方の医療復興、世界に先駆けたゲノム医療の実現等を目指した研究が行われる「東北メディカル・メガバンク機構拠点施設」を、アカデミックモールとして整備する医学部正門前広場に面して建設。玄関を入ると現れる4層吹抜けのアトリウムが、研究者の知的交流の場を提供するなど、産業界や地域社会との連携による新たな医療創出をサポートすることが期待される。

## 片平 キャンパス

### 片平北門会館がオープン

片平キャンパスの新しい顔の一部として片平北門会館がオープン。先行して2011年にオープンしたレストラン棟や、新たに整備された店舗、交流スペース、桜並木、さらに向かい側の北門周辺のオープンスペースや歴史的建造物が一体となり、にぎわいあるエントランス空間を演出している。建物上層の3~8階は宿泊施設「ユニバーシティ・ハウス片平」を整備。6~8階は単身者から家族世帯まで対応した研究者用、3~5階は学生寮となっている。また低層部の2階には同窓会である校友会に所属する卒業生のための「北門ラウンジ」や、72席のセミナースペース「エスパス」、ラウンジ兼来賓対応のレセプションルーム「セリシール」が整備され、春には満開の桜を眺めることができる。



### WPI-AIMR本館が日経ニューオフィス賞と東北建築賞作品賞を受賞

大正13年築の東北帝大金属工学教室の外壁を保存・再生したWPI-AIMR本館(インテグレーション教育研究棟)が一般社団法人ニューオフィス推進協会・日本経済新聞社共催の第25回日経ニューオフィス賞東北ニューオフィス推進賞と日本建築学会の主催する第33回東北建築賞作品賞を受賞。

### ユニバーシティ・ハウス三条II 完成

三条地区で整備が進められてきたユニバーシティ・ハウス三条IIが完成。これにより新たに216名の定員が増加し、既存のユニバーシティ・ハウス三条Iと合わせて632名の収容定員となる。既存施設同様、8つの個室がオープンリビングを共有するようグループ化し、日本人学生と外国人留学生の共同生活を通じた国際的な人材育成を目指している。既存施設との間に確保された緑豊かな中庭等の屋外空間も、豊かな国際交流の舞台となるようデザインされている。

